

「昭和の校舎お別れセレモニー」校長あいさつ

しばらく梅雨らしい雨模様でしたが、今日は明るい晴れ間が見えてまいりました。

このたび、新しい校舎が建設されることで、いよいよ現在の校舎がこの夏に取り壊されることとなりました。そこで、今日の「校舎お別れセレモニー」の開催をご案内したところ、中條同窓会長はじめ、大変多くの卒業生の方々にこの式典に参加していただきました。ありがとうございます。そして、このあとは、卒業生で元校長の今城先生よりご講演をしていただくことになっています。

さて、1900年に始まる本校の長い歴史は、大きく二つに分けることができます。前半は1900年の学校創立から第二次世界大戦を挟んで1965（昭和40年）年までの旧校舎の時代です。後半は、学校がこの地に建設されてから現在に至る50年間の新校舎の時代です。

木造の旧校舎は、現在の南新町商店街にあって、明治、大正、昭和の三つの時代にわたり地域の文化の中心として輝かしい伝統を築いてきました。昭和30年代の中頃になり、旧校舎は、老朽化と生徒の急増に伴い建て替えられることになりました。様々な議論の末、より教育環境のよい場所にと、学校は小高い丘を切り開いて造成されたこの場所に移転され、1965（昭和40年）年に新校舎が完成しました。移転・新築に際して、地元地域や同窓会の方々の様々な力が結集され、県が予定していなかったほどの、当時としては他に類を見ない立派な校舎が完成しました。一つの例が、地元の有志によって築かれた、正門に連なる石垣です。三高城と呼ばれたほど堂々とした威厳のあるその姿は、県内の他の高校にはどこにも見当たりません。この高台に建つ新校舎で、更に多くの方々が学び、卒業していき、世界に羽ばたき、また、地域に目指しその発展に貢献してきたのです。

旧校舎から新校舎へと、時代が移り社会が大きく変化しながらも、学校で変わらず受け継がれてきたものがあります。それは、「質実剛健」の三高精神です。質実とは、中身がしっかりと充実していながら素朴で飾り気がないこと、剛健は心身ともに強くたくましく健やかであることです。三高生はどの時代にあってもこのことを目標にし努力してきました。皆さんに強くお願いしたいのは、校舎が建て替わり、学校の新しい時代を迎えようとも、この三高精神を変わずに受け継ぎ守ってってもらいたいということです。幸、先ほどふれた石垣も工事には関係なく、堂々とした姿のままあり続けるはずです。

さて、いよいよ50年間続いた今の校舎は新しい校舎へと生まれ変わり、旧校舎時代、新校舎時代に続く3番目の新時代を迎えることになるわけです。偶然とはいえ、そのような50年に一度という学校の歴史の節目に在籍できたことを皆さんと共に誇りにし、心から喜びたいと思います。そして、生徒の皆さんには今の校舎の姿を心に刻み、卒業後も、大人になっても、いつまでも忘れないでほしいと願っています。

最後に、長い間、三高生の青春の舞台として、多くのものを育んでくれた校舎と、その建設に携わった方々に、心より感謝申し上げお別れの式典のあいさつとします。ありがとうございました。